

終末期医療に関する調査

【一般国民対象調査】

【ご記入に際してのお願い】

- 1) 宛名の方ご本人がお答えください。
- 2) ご記入は質問の番号にそってお願いします。
- 3) 一部の方だけにお答えいただく質問もございますが、その場合は【...の方に】といった指示があります。
- 4) お答えはあてはまる番号に 印をつけてください。
- 5) 「その他」に をつけられた場合には、()内に具体的にご記入ください。
- 6) ご記入は鉛筆または、黒・青のペン、ボールペンでお願いします。
- 7) 記入上おわかりにならない点などがありましたら、下記の新情報センターまでお問い合わせください。(受付は平日9:00~17:00)

【ご返送締切日】

ご記入いただきました調査票は、3月14日(金)までに返送用封筒にてご返送くださいますようお願いいたします。

平成 15 年 2 月

調査主体 厚生労働省医政局総務課

調査実施 社団法人 新情報センター
東京都渋谷区恵比寿1-13-6
電話 03-3473-5231
担当 利光

問1 最近、終末期医療に関して「安楽死」「尊厳死」「リビングウィル(書面による生前の意思表示)」などの問題が話題になっていますが、あなたはこれらに関心がありますか。(は1つ)

- | | |
|------------|-----------------|
| 1 非常に関心がある | 3 あまり関心がない |
| 2 まあ関心がある | 4 ほとんど(全く)関心がない |

問2 あなたご自身が治る見込みがない病気になった場合、その病名や病気の見通し(治療期間、余命)について知りたいとお考えになりますか。(は1つ)

- | | |
|----------|-------------|
| 1 知りたい | } → (問3-1へ) |
| 2 知りたくない | |
| 3 わからない | |

補問 (問2で1をお選びの方に) この場合、病名や病気の見通しについて直接担当医師から説明を受けますか。(は1つ)

- | | |
|---------------------|---|
| 1 受ける | |
| 2 家族に聞いてもらい、その話しを聞く | |
| 3 その他(具体的に |) |

問3-1 あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく、非常に死期が迫っている(1ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、心肺蘇生措置についてどのようにお考えになりますか。(は1つ)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1 心肺蘇生措置は続けられるべきである | 3 心肺蘇生措置はやめるべきである |
| 2 心肺蘇生措置はやめたほうがよい | 4 わからない |

(ここでいう心肺蘇生措置とは死が迫った時に行われる以下の行為を指すものとします。
「心臓マッサージ、気管内挿管、気管切開、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与等の医療行為」)

問3-2 あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。(は1つ)

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである | →(問4-1へ) |
| 2 単なる延命医療はやめたほうがよい | |
| 3 単なる延命医療はやめるべきである | |
| 4 わからない | →(問4-1へ) |

補問1 (問3-2で2か3をお選びの方に) この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(は1つ)

- | | |
|---|----------|
| 1 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法 | →(問4-1へ) |
| 2 単なる延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせる様な方法 | →(問4-1へ) |
| 3 あらゆる苦痛から解放され安楽になるために、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法 | |
| 4 わからない | →(問4-1へ) |

(次ページ補問2へ)

補問2 (補問1で3をお選びの方に)このような方法がなされるとすると、その時にどのような条件が必要となるとお考えでしょうか。あなたのお考えに近いものをいくつでもお選びください。(はいくつでも)

- 1 医学的にみて患者が不治の病に冒され、しかもその死が目前に迫っていること
- 2 患者の痛みが甚だしく、誰もがこれを見るに忍びないほどであること
- 3 患者の痛みからの解放を目的とした治療が十分なされていること
- 4 患者本人の強い要請があること
- 5 方針の決定は担当医だけではなく、複数の医師又は医療チームによってなされること
- 6 医師が十分に患者に説明して、患者が納得した後で行われること
- 7 医師の手によることを原則とし、これができない場合は世間が納得できるだけの特別な事情があること
- 8 方法が常識的にも妥当なものとして認め得るものであること
- 9 その他()
- 10 わからない

問4-1 あなたご自身が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、療養生活は最期までどこで送りたいですか。(は1つ)

- 1 なるべく早く今まで通った(又は現在入院中の)医療機関に入院したい
- 2 なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病棟)に入院したい
- 3 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい
- 4 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい
- 5 自宅で最期まで療養したい
- 6 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい
- 7 老人ホームに入所したい
- 8 その他(具体的に)
- 9 わからない

問4-2 あなたは自宅で最期まで療養できるとお考えになりますか。(は1つ)

- 1 実現可能である → (問5へ)
- 2 実現困難である
- 3 わからない → (問5へ)

補問 (問4-2で2をお選びの方へ)実現できないとお考えになる具体的な理由はどんなことでしょうか。お考えに近いものをお選びください。(はいくつでも)

- 1 往診してくれるかかりつけの医師がいない
- 2 訪問看護(看護師の訪問)体制が整っていない
- 3 訪問介護(ホームヘルパーの訪問)体制が整っていない
- 4 24時間相談にのってくれるところがない
- 5 介護してくれる家族がいない
- 6 介護してくれる家族に負担がかかる
- 7 症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安である
- 8 症状が急に悪くなったときに、すぐ病院に入院できるか不安である
- 9 居住環境が整っていない
- 10 経済的に負担が大きい
- 11 その他(具体的に)

問5 では、あなたの家族が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。(は1つ)

- 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである → (問6へ)
- 2 単なる延命医療はやめたほうがよい
- 3 単なる延命医療はやめるべきである
- 4 わからない → (問6へ)

補問 (問5で2か3をお選びの方に)この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような方法が考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(は1つ)

- 1 痛みをはじめとしたあらゆる苦痛を和らげることに重点をおく方法
- 2 単なる延命医療を中止して、自然に死期を迎えさせる様な方法
- 3 あらゆる苦痛から解放され安楽になるために、医師によって積極的な方法で生命を短縮させるような方法
- 4 わからない

問6 あなたの家族が痛みを伴い、しかも治る見込みがなく死期が迫っている(6ヶ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、療養生活は最期までどこを薦めますか。(は1つ)

- 1 なるべく早く今まで通った(今、入っている)医療機関へ入院させたい
- 2 なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげることを目的とした病棟)へ入院させたい
- 3 自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関へ入院させたい
- 4 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟へ入院させたい
- 5 自宅で最期まで療養させたい
- 6 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的な治療をさせたい
- 7 老人ホームへ入所させたい
- 8 その他(具体的に)
- 9 わからない

問7 あなたご自身が、持続的植物状態で治る見込みがないと診断された場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。(は1つ)

- 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである → (問8へ)
- 2 単なる延命医療はやめたほうがよい
- 3 単なる延命医療はやめるべきである
- 4 わからない → (問8へ)

ここでいう「持続的植物状態」とは

「脳幹以外の脳の機能が障害され、通常3~6ヶ月以上自己及び周囲に対する意識がなく、言語や身振りなどによる意思の疎通はできないが、呼吸や心臓の動き、その他内臓機能は保たれている状態をいう」ものとします。

(次ページ補問1へ)

補問1 (問7で2か3をお選びの方に)この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(は1つ)

- 1 意識不明の状態から回復しないと診断されたとき
- 2 生命の助かる見込みがないと診断されたとき
- 3 生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき
- 4 わからない

補問2 (問7で2か3をお選びの方に)この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような治療を中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(は1つ)

- 1 人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療は中止してよいが、それ以外の治療(床ずれの手当や点滴等)は続ける
- 2 一切の治療は中止してよい
- 3 その他(具体的に)
- 4 わからない

問8 では、あなたの家族が、持続的植物状態で治る見込みがないと診断された場合、単なる延命医療についてどのようにお考えになりますか。(は1つ)

- 1 単なる延命医療であっても続けられるべきである → (問9へ)
- 2 単なる延命医療はやめたほうがよい
- 3 単なる延命医療はやめるべきである
- 4 わからない → (問9へ)

ここでいう「持続的植物状態」とは「脳幹以外の脳の機能が障害され、通常3~6ヶ月以上自己及び周囲に対する意識がなく、言語や身振りなどによる意思の疎通はできないが、呼吸や心臓の動き、その他内臓機能は保たれている状態をいう」ものとします。

補問1 (問8で2か3をお選びの方に)この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような時期に中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(は1つ)

- 1 意識不明の状態から回復しないと診断されたとき
- 2 生命の助かる見込みがないと診断されたとき
- 3 生命の助かる見込みがなく、死期が迫っていると診断されたとき
- 4 わからない

補問2 (問8で2か3をお選びの方に)この場合単なる延命医療を中止するとき、具体的にはどのような治療を中止することが考えられますか。お考えに近いものをお選びください。(は1つ)

- 1 人工呼吸器等、生命の維持のために特別に用いられる治療は中止してよいが、それ以外の治療(床ずれの手当や点滴等)は続ける
- 2 一切の治療は中止してよい
- 3 その他(具体的に)
- 4 わからない

問9 あなたが高齢となり、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難となり、さらに、治る見込みのない状態になった場合、どこで最期まで療養したいですか。(は1つ)

- 1 自宅
- 2 病院
- 3 老人ホーム
- 4 その他(具体的に
- 5 わからない

} → (補問2へ)

補問1 (問9で1をお選びの方へ)なぜ、自宅で最期まで療養したいと思いますか。(はいくつでも)

- 1 住み慣れた場所で最期を迎えたいので
- 2 最期まで自分の好きなように過ごしたいので
- 3 家族との時間を多くしたいので
- 4 家族に看取られて最期を迎えたいので
- 5 病院では自分の望むように最期を迎えられないので
- 6 家族や知人が自宅で最期を迎えていたので
- 7 その他

→ (問10へ)

補問2 (問9で2、3、4、5をお選びの方へ)あなたはなぜ自宅以外の場所で最期まで療養したいと思ったのですか。(はいくつでも)

- 1 自宅では家族の介護などの負担が大きいため
- 2 自宅ではかかりつけ医など最期を看取ってくれる人がいないため
- 3 自宅で最期を迎えるのは、一般的ではないため
- 4 自宅で最期を迎えるのは、経済的に負担が大きいため
- 5 自宅では、最期に痛み等に苦しむかもしれないから
- 6 自宅では、緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないから
- 7 自宅での療養について、家族が希望しないから
- 8 それまでかかっていた病院(施設)の医師、看護師、介護職員などのもとで最期までみてほしいから
- 9 わからない

補問3 (問9で2、3、4、5をお選びの方へ)あなたはなぜ自宅で最期まで療養するのは、困難だと思ったのですか。(はいくつでも)

- 1 往診してくれる医師がいないから
- 2 訪問看護体制が整っていないから
- 3 介護体制が整っていないから
- 4 24時間相談にのってくれるところがないから
- 5 介護してくれる家族がいないから
- 6 自宅では、緊急時に家族へ迷惑をかけるかもしれないから
- 7 居住環境が整っていないから
- 8 経済的に負担が大きいため
- 9 自宅で最期を迎えるのは、一般的ではないから
- 10 自宅では、最期に痛み等に苦しむかもしれないから
- 11 わからない
- 12 その他(具体的に)

問 10 あなたの家族が高齢となり、脳血管障害や痴呆等によって日常生活が困難であり、さらに、治る見込みのない状態となった場合、どこで最期まで療養させたいですか。(は1つ)

- 1 自宅
- 2 病院
- 3 老人ホーム
- 4 その他(具体的に)
- 5 わからない

問 11 - 1 「治る見込みがなく、死期が近いときには単なる延命医療を拒否することをあらかじめ書面に記しておき、がんの末期などで実際にそのような状態になり、本人の意思を直接確かめられないときはその書面に従って治療方針を決定する。」(リビング・ウィル)という考え方について、あなたはどのようにお考えになりますか。(は1つ)

- 1 賛成する
 - 2 患者の意思の尊重という考え方には賛成するが、書面にまでする必要がない
 - 3 賛成できない
 - 4 その他(具体的に)
 - 5 わからない
- (問 11 - 2へ)

補問 1 (問 11 - 1 で 1 をお選びの方に) 書面による本人の意思表示という方法について、わが国ではどのように扱われるのが適切だとお考えになりますか。(は1つ)

- 1 そのような書面が有効であるという法律を制定すべきである
- 2 法律を制定しなくても、医師が家族と相談の上その希望を尊重して治療方針を決定してくれればよい
- 3 その他(具体的に)
- 4 わからない

補問 2 (問 11 - 1 で 1 をお選びの方に) 死期が近い時の治療方針についての意思について、入院(入所)前、入院(入所)時、あるいは、入院(入所)後に、病院や介護施設(老人ホームなど)等から、書面により患者の意思を尋ねるという考え方についてどのように思いますか。(は1つ)

- 1 賛成する
- 2 反対である
- 3 わからない

補問 3 (問 11 - 1 で 1 をお選びの方に) 書面に残すとしたら、どの時期が良いと思いますか。(は1つ)

- 1 入院(入所)する以前に書面として残したほうが良い
- 2 入院(入所)時に書面として残したほうが良い
- 3 入院(入所)後のある時期に書面として残したほうが良い
- 4 時期は、いつでもかまわない
- 5 わからない

問 11 - 2 (全員の方向に) このような書面を見せれば、医師はその内容を尊重してくれると思いますか。

(は1つ)

- 1 そう思う
- 2 そうせざるを得ないと思う
- 3 そうは思わない
- 4 その時の状況による
- 5 その他(具体的に)
- 6 わからない

問 11 - 3 (全員の方向に) 事前に本人の意思の確認ができなかった患者の場合、「家族や後見人が延命医療を拒否したら、それを本人の意思の代わりとして治療方針などを決定すればよい」という考え方(代理人による意思表示)についてどう思いますか。(は1つ)

- 1 それでよいと思う
- 2 そうせざるを得ないと思う
- 3 そうは思わない → (問 11 - 4 へ)
- 4 その時の状況による
- 5 その他(具体的に)
- 6 わからない

補問 4 (問 11 - 3 で 3 以外を選んだ方) 代理による意思表示の時、代理として意思表示する人は誰が適当だと思いますか。(は1つ)

- 1 配偶者
- 2 兄弟姉妹
- 3 子供
- 4 親
- 5 後見人
- 6 家族以外の親しい人(友人など)
- 7 主治医
- 8 主治医以外の医師(かかりつけ医等)
- 9 病院や介護施設の職員(看護師、介護福祉士など)
- 10 福祉事務所など公的機関に所属する人
- 11 その他()
- 12 わからない

問 11 - 4 (全員の方向に) 意思表示の書面がなく、代理人による意思表示がない場合、単なる延命医療が最期まで続けられる可能性があります、それについてはどう思いますか。(は1つ)

- 1 家族や親戚など多数の意見に従ってほしい
- 2 配偶者など最も身近な人の意見に従ってほしい
- 3 担当する医師の考えで決めてほしい
- 4 全員一致しなければ、延命医療が継続されてえもやむを得ない
- 5 わからない

問 12 単なる延命医療を続けるべきか中止すべきかという問題について、医師と患者の間で十分な話し合いが行われていると思われますか。(は1つ)

- 1 十分に行われていると思う。
- 2 行われているが不十分であると思う
- 3 行われているとは思わない
- 4 その時の状況による
- 5 その他(具体的に)
- 6 わからない

【フェースシート】

最後に、あなたご自身のことについて、もう少しお伺いします。

F1 〔性別〕

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F2 〔年齢〕

- | | |
|----------|-----------|
| 1 20～24歳 | 7 50～54歳 |
| 2 25～29歳 | 8 55～59歳 |
| 3 30～34歳 | 9 60～64歳 |
| 4 35～39歳 | 10 65～69歳 |
| 5 40～44歳 | 11 70歳以上 |
| 6 45～49歳 | |

F3 〔学歴〕あなたが最後に卒業された学校はどちらですか。(中退、在学中も卒業とみなします)

- | |
|---------------|
| 1 中学(小・高小含む) |
| 2 高校(旧中含む) |
| 3 大学(旧高・高専含む) |
| 4 不明 |

F4 〔職業〕あなたのご職業は何ですか。

- | |
|--------------------|
| 1 自営業 |
| 2 勤め(パート、アルバイトを含む) |
| 3 無職(学生、専業主婦を含む) |

F5 〔入院〕あなたやご家族の方で、最近5年間に病気やけがで入院したことがある方はいらっしゃいますか。次の中からお選びください。(は1つ)

- 1 自分が入院した
- 2 家族が入院した
- 3 自分、家族ともに入院した
- 4 その他(具体的に)
- 5 わからない
- 6 入院したものはいない

F6 〔死別の経験〕あなたは、最近5年間に身近な大切な人の死を経験されましたか。(はいいくつでも)

- 1 家族を亡くした
- 2 親戚を亡くした
- 3 友人を亡くした
- 4 経験をしていない

ご協力ありがとうございました。